

平成29年度 第4回八王子市多文化共生推進評議会議事要点録

【日時】 平成29年12月22日（金）午後6時30分から午後8時30分まで  
【場所】 学園都市センター11階 学生交流室・国際交流室

【出席者】 ◎評議員  
森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、河西評議員、シュレスター評議員、館山評議員、谷川評議員、児野評議員、ドミー評議員

◎事務局  
小浦部長、新井課長、櫻井主査、柳沢主任、阿部田主事  
まだわら評議員

【欠席者】  
【公開・非公開の別】

【傍聴人】  
【配付資料】

- 資料1 多文化共生のまちづくりを進めるうえでの主要な課題（案）
- 資料2 重点的な取組、重点施策の設定（案）
- 資料3 基本目標に対する指標（案）
- 資料4 施策の体系図
- 資料5 推進する施策（案）

【参考資料】  
目次（プラン改定前後対比）

## 1 開会

- 《資料確認》
- 《小浦部長挨拶》
- 《新井課長挨拶》

## 2 意見交換

### 評議員

- ・総務省のホームページでは、全国の自治体における多文化共生プランの策定状況が公開されている。政令指定都市を除き、市独自のプランを作っているのは8%。市の政策に多文化共生推進施策を盛り込んでいたり、他のプランに組み込んでいる自治体も

50%程度。市独自で多文化共生推進プランを策定している政令指定都市も少なく、八王子市は先進的に取り組んでいることがわかる。先進的な取り組みを行っているという自負を持って改定に取り組んでほしい。

- それでは、次第2の意見交換にあたり、資料1、2について事務局より説明をお願いする。

《事務局より資料1、2を用いて説明》

#### 評議員

- ただいまの説明に対して意見はあるか。

#### 評議員

- すっきり整理されてわかりやすくなった。
- まず、資料2の重点的な取組2と資料1の外国人市民の地域参加について。資料2では、地域に日本人市民とともに活躍することが期待されていると記載がある。資料1では、外国人市民には地域社会の一員として活躍することが期待されていると記載がある。日本人市民は町会自治会に加入することが当たり前、地域の担い手になるのが当たり前という認識があるが、外国人市民にもそれらが当たり前と言ってしまっても良いのか気になった。資料1は、主語が書かれていないため、書き方を工夫できると良い。
- 資料1の「多文化共生意識の啓発、国際理解・国際協力の推進」について、多文化共生という言葉を知っている人が少ないから啓発する必要があるのではなく、外国人が増えていくことに対して不安を感じたり、心配をしている人がいるから取り組むものであるため、書き方を変えた方が良い。
- 資料1の「情報提供」と「日本語の学習」については、他の項目を比較すると書き方が異なる。このような問題があるという内容だけではなく、どうする必要があるという内容と重点的な取り組みにつながらない。どちらかの書き方で統一した方が良い。

#### 事務局

- 資料1、2の書き方は非常に迷った。通常、課題といえば、何々ができてない等の否定形が多い。情報提供の部分については、ご指摘のとおり、何々が必要であるという課題への取り組みについて書いていない。ここについては、再度検討していきたい。

#### 評議員

- 資料5について、情報提供などは一般的なもので、全所管に関わる内容である。多文化

共生推進課が大きく関わる項目については、積極的な書き方ができる。一方でこのような必ずしも単独の課が担当するものになっていない項目は、ある程度押さえた表現になってしまうのも仕方ないかもしれない。

#### 評議員

- 外国人観光客への対応とは、外国人観光客に対する多文化共生という視点で取り組める対応について記載しているということが良いか。観光案内であれば、通訳をすることだと思うが、災害時の対応なども含まれているという認識で良いか。

#### 事務局

- そのとおり。前回示した資料では、観光客等への対応については、コミュニケーション支援の充実に入れていたが、今のような考え方を踏まえ、多文化共生の視点と観光をどのように結びつけるかを意識し、どこに記載することが適切かを考えた。今回は多文化共生意識の啓発、国際理解・国際協力の推進の項目に記載した。後程説明をするが、記載する場所を変更したため、それについても議論をしていただきたい。

#### 評議員

- 館山評議員の言うとおりの資料1については、課題のみ挙げるのか、対応まで書くのかを統一した方が良い。
- 市民へのアンケートと評議会での議論を踏まえて、課題をあげているが、それについては、いかがか。

#### 評議員

- 外国人が生活していく上では、もっとも大切なのは働く環境の改善である。外国人留学生は働きたいが、働く場所を見つけるためにどういったルートがあるのかわからないことが多い。企業がどのような人材を求めているかを市で把握することができるのか。

#### 事務局

- 企業と留学生にどのようなニーズがあるのか、把握しないことには施策を進められない。一般的には、企業は留学生を求めており、留学生は日本での就職を希望している人が多いと言われている。今回の改定にあたって、八王子市内における留学生の日本での就職希望や就職率に関する数字を把握できなかった。インターネット等で調べても全国の統計であっても求めている数字を把握することは難しいが、それら

はあく にんしき  
は把握しなければならぬと認識している。

ひょうぎいん  
評議員

- ・企業側からいうと、たとえば英語ができる人材が欲しいければ、有料の人材紹介業者に登録して、人材を紹介してもらっている。留学生はそういうことも知らないかもしれない。ウェブ上で企業が求める人材と学生をマッチングできれば、コストも安くできるのではないか。

ひょうぎいん  
評議員

- ・留学生には、八王子国際協会が実施している企業めぐりの事業がある。また各校にはキャリアセンターなどがあるため、そこと市が連携できればいいと思う。あとは企業のニーズを把握することも重要だ。

ひょうぎいん  
評議員

- ・大学コンソーシアム八王子はリクルートメントに絡んでいるのか。

じむきょく  
事務局

- ・大学コンソーシアム八王子に関しては、市民活動推進部内の別の課が関係しているが、大学間の連携を主として取組みを進めている。その取組みのひとつとして、留学生部会がある。各大学の留学生担当者で構成しており、様々なテーマを設けて情報提供や課題の共有等を行っている。そのほか、個々の留学生を対象に山車引き体験の企画などもしている。
- ・就職の斡旋については、市が手を出すのは難しい部分もある。

ひょうぎいん  
評議員

- ・大企業は問題ないと思うが、中小企業では在留資格の取得など難しい部分がある。市が紹介するようなことができれば、認められやすくなるのではないか。

ひょうぎいん  
評議員

- ・資格変更等の際に、市からアドバイスをを行うような支援ができれば良いのではないか。

ひょうぎいん  
評議員

- ・大学のキャリアセンターには、留学生担当がいるのか。

ひょうぎいん  
評議員

- 必ず専門家がいるかどうかはわからない。留学生のためのオリエンテーションを行っているところはある。
- 留学生は、自分の友達などのつながりから探している人が多いと聞く。

**事務局**

- 浜松市で聞いてきた話では、外国人の方には正規職員という概念があまりない。日本の就職サイクルでは、新卒が大前提で、なおかつ、正職員を目指すというもの。留学生には、正規職員という概念がなく、将来的な長い期間よりも、そのときの賃金を重視しており、待遇などにはあまり関心がない。
- 浜松市では、学生に説明する前に、両親に説明するようにしているとのこと。浜松市はこれまでの経過がありそのような環境が進んでいるが、本市もそのような仕組みを作っていく必要があるのではないかと。

**評議員**

- やまゆりセンターへの会員も勧めても、成功したのは1人だけ。

**事務局**

- 浜松市では日本で生まれて日本で就職して、一軒家を買うというロールモデルができてきている。こういうことが定着していくと、ほかにも広がるのかもしれない。

**評議員**

- きちんと大学を出たという人は問題ないが、そうでない人は難しい。

**事務局**

- 採用する側も新卒一括採用などの考え方も変えていく必要があるのではないかと。

**評議員**

- 企業はどういう人が欲しいのか。優秀なのは当たり前で、例えば、勉強だけでなく、それ以外の能力も見られると良い。

**評議員**

- やはり面接でどのような対応ができるのかを見ている。何回か面接を行い、性格等により判断していくことが多い。

**評議員**

- 面接指導をしている立場としていうが、フィリピンの方はとても流暢な英語を使う。ある私設児童館での英語教育のために、日本語学校へ相談があるが、ほとんどがすぐ辞めてしまう。類似例だが、小職は自営業で外国籍の人も採用しているが、やはり、平均勤務期間は1~3ヶ月。1年以上続けている人は2人くらいしか知らない。考え方が全く異なり、仲間内のネットワークで移動していくケースや仏教的な煩わせないという考え方で仕事を変えていく。私たちが国、地域、民族等で違いがあることを知らないといけないかもしれない。

評議員

- 自分の子どもの見た目は外国人。一流ではないが、大学を出て、何社も内定をもらい、大手企業に就職ができています。このようにスムーズに行く人はいいが、そうでない人をどうするかが大切。

評議員

- いちばん大切なのは日本語能力。続いて英語力やほかの言語。IT関係であれば、スキルの証明ができるもの。大切なのはコミュニケーション能力。

評議員

- 日本語はできる人は多いため、それだけでは難しい。何かスキルが必要。

評議員

- 学生は日本文化を知る必要があり、企業側も留学生の価値観、文化などを知る必要がある。企業は日本人と同じ扱いでは難しいと思う。

評議員

- 留学生は、日本に来て数年で就職しなければならないため、ほかの日本人と同じようには、会社に馴染めない。外国人という理由で給料を低くできないため、同じ給料を払わなければならない。ほかの日本人に負けない専門性を持たなければ、留学生自体も辛い思いをするのではないか。

評議員

- 就職時に専門性まで問われないこともある。私が就職した時は、面接での評価のみだった。時代の背景もあるかもしれないが、企業にもよるのではないか。

評議員

- 資料3の説明を求めろ。

《事務局より資料3について説明》

評議員

- 現在わからない数値でアバウトにわかるものがあるか。

事務局

- 語学ボランティアの登録者数は約200人いる。現在、八王子国際協会で語学ボランティア登録者の再登録を行っている。
- 国際交流フェスティバルは150人程度。
- 地域活動に参加する外国人留学生の人数は200～300人程度。八王子市外国人留学生奨学金受給者の活動が主な数値となっている。

評議員

- 自発的に参加している人数は把握できているか。

事務局

- できていない。

評議員

- 自動車の免許証を持っている人の数というのはどうか。

評議員

- どういう指標となるのか。

評議員

- 暮らしが安定していることになる。免許証を取れるというのはハイクラスだと思う。漢字の難しさもある。運転ができる外国籍の人は活躍していることが多い。

評議員

- 東京にいと、免許を取らない人も多いのではないか。

評議員

- ・仕事で必要ということもある。

評議員

- ・国際免許から切り替えるということでのいいのか。

評議員

- ・国に申請をするようだが、詳細はわからない。

評議員

- ・国によって違うのではないか。
- ・ベトナムでは免許を持っていれば金持ち。車の税金は200%。持っているだけで金持ち。自分のやりたい職種で必要であれば、取得するが、そうでない人は、難しいかもしれない。

評議員

- ・母国の免許を持っていれば切り替えができる。

評議員

- ・英語ができれば試験を受けられる。

評議員

- ・切り替えはとても難しく、20回落ちている人もいる。

評議員

- ・免許に関しては、国の問題で、八王子市の問題ではない。
- ・サンフランシスコでは10カ国語で試験が受けられた。

評議員

- ・大学を卒業し、日本で就職する学生のデータは手に入れないのか。

事務局

- ・全国では60%が日本での就職を希望しているというデータがある。別の調査のデータでは、大学等を卒業し、日本国内に就職した割合が約3割というデータはある。八王子市に限定したデータはない。

評議員

- ・各大学に依頼をすればある程度簡単に取れるのではないかと。大学卒業時に書類を書くため、在籍の人数、日本での就職についての数字は取れるのではないかと。

事務局

- ・八王子の学生のデータは大学コンソーシアム八王子が照会をかけている。大学によってデータの取り方が異なっていて、負担になっているとも聞く。大学コンソーシアム八王子には、外国人留学生に関する詳細なデータを取れないか求めていきたいと思う。

評議員

- ・名古屋大学などはかなり細かく出している。東京の大学でもやっていると思う。

事務局

- ・大学コンソーシアム八王子を通じて求めていきたい。結果、指標として使用できるかを検討する。

評議員

- ・この場では外国人のニーズと市の対応について議論した方が良いと思う。

評議員

- ・ニーズを確認し、その対策を検討する流れは、これまでも議論をやっている。細かい施策については、資料5で説明があると思う。

評議員

- ・基本目標の2で多文化共生意識の啓発があるのだから、指標の1つとして、「多文化共生」という言葉を知っている市民の割合の方がいいのではないかと。

評議員

- ・国際感覚が豊かになったと感じるというのは抽象的ではないかと。「多文化共生という言葉を知っている」のほうが統計を取りやすいのではないかと。

事務局

- ・多文化共生という言葉を知っている人の割合についても数字はとっている。

ひょうぎいん  
評議員

- ・個人的には、豊かになったという感覚の方が良いと思う。知っているかどうかは知識の問題だ。

じむきょく  
事務局

- ・その2つについては、作成時に迷ったところではあるが、基本目標に対する指標として考えたときに、「国際感覚が豊か」のほうに関連性があったため、採用した経緯がある。

ひょうぎいん  
評議員

- ・どのような基準を持って目標値を設定しているのか。

じむきょく  
事務局

- ・そこまで計算できていない。半分の方が豊かになってと感じることを目標にした。

ひょうぎいん  
評議員

- ・5年前の数字はあるのか。

じむきょく  
事務局

- ・市では持っていない。

ひょうぎいん  
評議員

- ・目標値の設定はどういう理屈で設定しているのか、きちんとしておかないといけない。

ひょうぎいん  
評議員

- ・こういうことをするから最終的にこうなるはずだということではなければならない。

ひょうぎいん  
評議員

- ・数字が出てきただけで大変なことだ。ある程度高まることで、一気に拡散していく。

ひょうぎいん  
評議員

- ・相当コツコツやらないと達成できない。

じむきょく  
事務局

- ・以前のデータがないため、数値の設定は難しいと思う。50%が良いかどうかはわから

ない。仮に八王子がオリンピック・パラリンピックのキャンプ地になると、国際感覚が豊かになったと感じるようになる。オリンピック・パラリンピックの開催が控えているため、ある程度は漠然としていてもいいと思うが、以前からのデータも考慮できれば良いが現状では難しい。

#### 評議員

- 資料4、5の説明を求める。

《事務局より資料4,5について説明》

#### 評議員

- 今の説明について何かあるか。

#### 評議員

- 重点的な取組み4について、国際交流フェスティバルはいちばん大きなイベントだが、知られていない。PRを考えなければならない。取組み5について、八王子商店街のホームページを見ると、日本語だけで英語表記がない。八王子には良い個人店があるので外国人にもわかるようにした方がいい。外国籍の子どもたちの教育支援について市はよくやってくれている。やさしい日本語を使った支援は、特別支援（障害のある子ども）にも役に立つから進めてほしい。八王子FMができた、災害時にはスマホの通信もできなくなるが、ラジオなら聞き続けることができる。

#### 評議員

- 具体的な方策は事務局で考えるのだと思う。国際交流フェスティバルについては、この評議会に入って初めて知った。宣伝が足りないと思う。町会自治会連合会の集まりなどでPRした方がいい。認知度が上がれば、国際感覚が豊かになったと感じるのではないか。

#### 事務局

- 市ではたくさんのイベントを行っているが、人集めはみんな苦労している。様々な媒体があるなか、一般的なものはほぼやっている。ある程度ターゲットを絞る必要もあるのではないか。

#### 評議員

- イベントがあるときに町会に動員をかけるという方法もある。

事務局

- ・町会に個別に周知・お願いをしているケースもある。

評議員

- ・SNSがPRのワンストップサイトになっている。

評議員

- ・特別支援について何か動きがあるか。教育では、外国人に対応できる特別支援が問題になっている。

事務局

- ・行政の支援を受けている人には周知等をしているかもしれないが、そうではない、就学前などの子ども等については難しいかもしれない。

評議員

- ・特別支援学校の生徒は、日本人、外国人に関わらず、ある程度の支援が必要であるため、外国人だからといって、特別に負担を感じることは少ないとの話を聞いたことがある。しかし、保護者への説明は苦勞されている。日本語の文書が読めないため、差別されている。だから子どもが普通学校に行かせてもらえないと感じる人もいる。

評議員

- ・就労支援における家族への支援でも同じことが言える。

評議員

- ・やさしい日本語を活用していくことしかない。

評議員

- ・日本語学校も国籍豊かであるため、共有言語を日本語として、コミュニケーションを  
図っている。

評議員

- ・外国籍等児童生徒の等は何を指しているか。

事務局

- ・日本国籍だが、外国に長く住んでおり、日本語が不得意である帰国者などを指している。この表現は、様々なものがあるが、今回は、教育委員会で使用している表現を採用した。

#### 評議員

- ・外国籍の子どもで日本語教育が必要な子どもは3万人いると言われているが、先ほどの外国につながる日本国籍の子どもも1万人程度いると言われているため、その人たちへの支援を重要である。
- ・かながわ国際交流財団では、登録された方に災害時に多言語でメールを配信する仕組みを以前から取り入れている。

#### 評議員

- ・表紙をどうするか。

#### 評議員

- ・事務局に一任する。

#### 評議員

- ・本日は時間となったため、以上とする。

### 3 報告事項

- ・外国人のための防災訓練
- ・外国人のための無料専門家相談会
- ・多文化子育てワークショップ など

### 4 事務連絡

- ・次回開催日程 平成30年1月19日（金）18時30分から

### 5 閉会